



国土交通省

# 清水港湾事務所 100年間の主要プロジェクト 清水港 三保ケーソン製作場の整備

(1967~1968)



1960年代の高度経済成長に伴い、清水港の港勢が急拡大し、不足する岸壁や防波堤等の港湾施設の拡充が急がれる中、岸壁や防波堤の本体となるケーソン（鉄筋コンクリート製の箱）を効率的に製作するため、1967年（昭和42年）から1968年にかけて、三保地区にケーソン製作場を整備しました。

本製作場は、重さ2,000トンのケーソンを製作可能であり、当時は日本で最大規模のケーソン製作場でした。

これまでに、合計約460函のケーソンを製作し、これらのケーソンは、清水港や御前崎港の港湾施設に活用されています。

- 施設面積／約28,800㎡（同時に4函のケーソンを製作可能）
- 進水方式／斜路式（斜路の延長167m、勾配10%）
- 対象ケーソン／幅16.5m、長さ15.0m、高さ15.5m、重量2,000t（最大）
- 事業期間／1967年（昭和42年）～1968年（昭和43年）
- 主なケーソン活用先  
清水港：外港防波堤、三保防波堤、興津第2埠頭、袖師第1埠頭、新興津防波堤  
御前崎港：防波堤（東）、防波堤（西）



ケーソン4函の同時製作工事  
(1983年3月)



三保ケーソン製作場の全景  
(2008年12月)

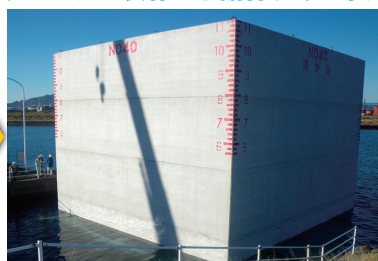


清水港新興津防波堤本体ケーソン(約1,600t)の製作工事  
(2013年1月)

## ケーソンの製作から据え付けまでの手順



①鉄筋の組立



③進水



⑤所定位置で据付



②コンクリートの打設



④船で所定位置まで曳航